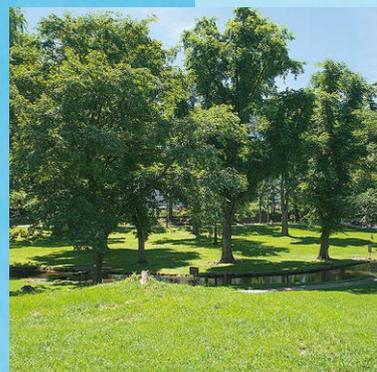
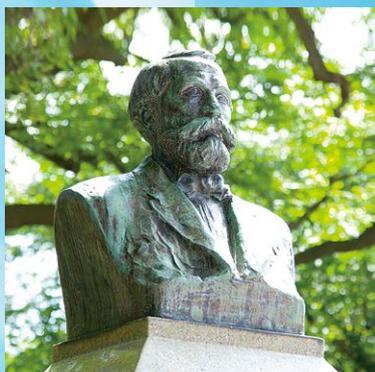


北海道大学
会計専門職大学院
HOKKAIDO UNIVERSITY ACCOUNTING SCHOOL



北海道大学アカウンティングスクール(HAccS)は、単に会計専門職を養成するのではなく、これからの社会で求められる質の高い会計専門職の養成を目的として設置されました。21世紀の経済社会を担うにふさわしい高度な専門性と幅広い視野、そして社会的責任感と倫理観を備えた会計専門職の養成を目指します。

21世紀を担う会計専門職が備えるべき資質・能力

■会計専門職としての基本的能力

- ▶体系的に習得した財務会計、管理会計、監査の各分野についての深い専門知識
- ▶知識を実際に使いこなす実践力
- ▶専門職としての高潔な倫理観、社会に対する責任感
- ▶交渉能力や説得能力、コミュニケーション能力
- ▶組織管理能力、リーダーシップ

■社会的要請に応える付加価値的能力

- ▶先端的・応用的な会計問題に対処する専門知識及び柔軟性
- ▶グローバル化に対応できる国際感覚、語学力
- ▶情報技術・情報処理への深い造詣
- ▶経済学や経営学など隣接他分野に関する基本的知識

HAccSでは、これらの資質・能力を備えた会計専門職を養成するために、優れた教授陣と充実したカリキュラムを用意しています。

HAccSが養成する会計専門職像

HAccSは、会計に関する専門知識と職業的倫理観といった会計専門職としての必須の能力および資質を確実に備えた上で、様々な社会的要請に応えるための付加価値を持った「高度な」会計専門職の養成を目的としています。社会的要請に応えるための付加価値の方向性として、特に二つの方向性を重視します。

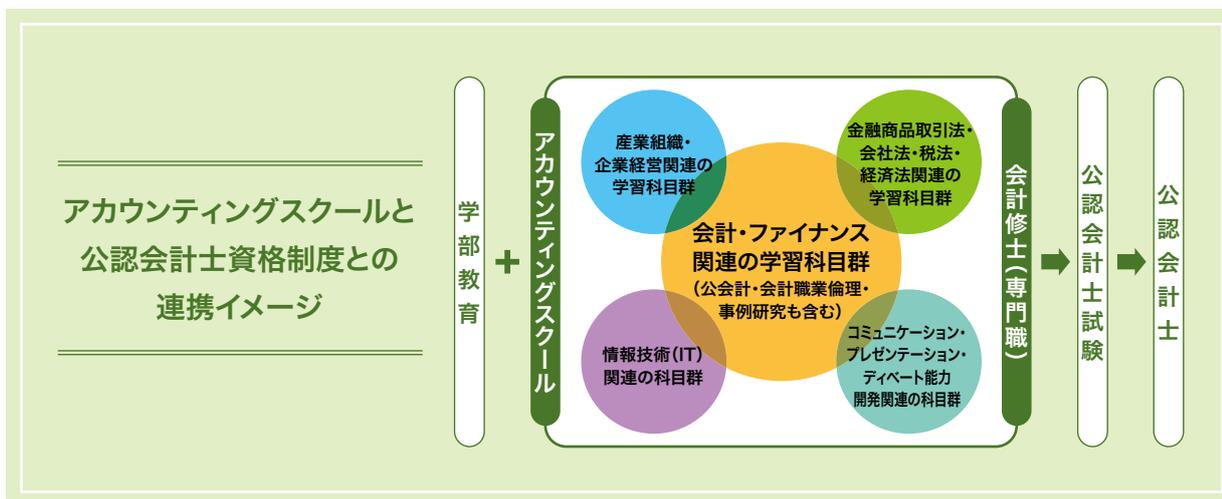
■ビジネスの先端で活躍が可能な会計専門職

企業活動のボーダレス化や国際財務報告基準の施行に伴って、国際的な広がりを持つ会計知識の必要性はますます高まるものと考えられます。さらに、企業活動は国際化と同時に高度化・複雑化しているので会計専門職は常に知識のリカレントが必要とされます。同様に、情報化など急激で多様な環境変化に対応するため、ITリテラシーや、情報関連知識の修得が可能なカリキュラムを展開します。これによってグローバル化や高度情報社会に即応できる会計専門職を養成します。

■地域社会に貢献する会計専門職

会計専門職は、会計に関する専門家としてだけでなく、高い倫理観と誠実性を備えた独立の第三者としても期待されています。公会計分野、公監査分野などの公的部門で、会計専門職に対する期待がますます大きくなっていくものと考えられます。HAccSでは、高い倫理観・誠実性を具備し、地域の要請に応える会計専門職を育成します。

HAccSの修了者は、社会的要請に応えるための付加価値を持った高度な会計専門職として、会社法監査及び金融商品取引法監査に従事する公認会計士としてはもちろん、最先端のビジネスパーソンとして、あるいは国税専門官や財務捜査官などとして、幅広く社会で活躍することができるのです。



複雑化した現代社会に対応する充実のカリキュラム

■会計職業倫理科目の必修化

会計専門職が社会的要請に応えるための付加価値を高める方策としては、先端的な会計知識をはじめとする専門能力を高めることが重要です。しかし、さらに重要なことがあります。それは、社会に貢献するための倫理観・社会的責任感をもつことです。HAccSでは、会計専門職として必須の資質である倫理観・社会的責任感を涵養します。

■国際的問題を扱う科目の重点的な配置

わが国の会計専門職には国際的な会計感覚、国際的な会計問題の検討能力が強く求められています。HAccSでは、国際的に活躍可能な会計専門職を養成します。

■公的部門の会計に関する科目の重視

近年、国、地方自治体、特殊法人、公益法人、独立行政法人、NPOなどの公的部門の会計の重要性が増しています。とくに、北海道のような地方では公的部門のもつ経済的重要性は極めて大きくなっています。HAccSでは、財務会計、管理会計、監査の各分野における公的部門の会計科目を開講して、この分野の教育を強化します。

■会計4分野のバランスよい履修

会計専門職は、今後、監査業務だけでなく多様な業務に就くことが求められます。そのため、財務会計、管理会計、監査、税務会計の会計4分野に関する基礎的な知識を満遍なくよく具備することが必要になります。HAccSでは、これら4分野をバランスよく履修できるようにカリキュラムを編成しています。

■情報技術・情報処理教育を重視

会計専門職は、会社法・金融商品取引法における電子提出や税務における電子申告への対応可能性といったビジネスツールとしての情報技術を身につけなければなりません。また、経営・会計への情報技術の活用実態や巨大企業に対する試査に適用するサンプリングに関する確率・統計理論の深い理解など、経営の評価に際して要請される情報技術・情報処理の理論に通暁することも必要になります。さらに、これらの情報に関する理論と会計実務・会計理論との関係を理解し、会計実務の諸場面で情報技術・情報処理の理論を応用する能力をも身につけなければなりません。HAccSでは、「IT・経営情報科目」に実務家教員を重点的に配置するほか、会計・情報関連の両分野の教員によって展開するIT・経営情報科目を設けるなど情報技術・情報処理教育に重点をおいた教育を実施します。

1学年定員20名の徹底した少人数教育

■修士論文の非修了要件化

HAccSでは、修士論文を修了要件として課しません。学生と教員との対話を重視した双方向性の講義履修を従来型の大学院に比して重く課すことで、実務能力と問題解決能力を持つ会計専門職の養成を目指すためです。

- コア科目を含む基礎科目では、知識を効率的に教授するために講義形式を採用します。講義形式といっても、教員から学生への一方的な講義ではなく、学生への問いかけや、学生からの質問を重視する対話型講義を意味しています。

■密度の濃い双方向教育

会計専門職としての高度な専門的能力を短期間に身につけるためには、担当教員と履修学生との双方向コミュニケーションを図る必要があります。HAccSでは、今後の会計専門職に必要な交渉力・ディスカッション能力を涵養するために、次のような講義展開の方法を採用しています。

- 実践科目では、会計専門職として実社会で活動するために必要な交渉力やコミュニケーション能力の習得を図ります。実際の社会における生きた素材を教材として、実験(シミュレーション)やロールプレイングなどを行います。これによって「正解のない問題」に対する多様な解決策を算出する能力を涵養します。

■社会的ニーズに対応した実践的教育

日本公認会計士協会は、会計専門職団体であり、各種規範等を設定する立場にあります。HAccSでは、日本公認会計士協会や日本公認会計士協会北海道会と定期的な意見交換の場を設けて、最新の情報に基づいた教育を実践します。

- 応用科目は、基礎科目で習得した会計専門職としての基礎的知識の深化・発展を目的とします。そのために、教員と学生との対話だけではなく、学生同士の活発な議論を喚起する講義形式を採用します。レポートや答案の添削によって、講義の際の議論が知識習得に直結するように工夫を凝らしています。



きめ細やかな修学サポート

■担任制

学生5名程度に1人の担任を配置して、学生の学習環境の充実を図ります。

■オフィスアワー

講義内容に関する学生からの質問等を受け付けるためにオフィスアワーが設定されています。

■相談窓口

学生生活に関する様々な相談窓口として、学生委員を配置します。「学生投書箱」と専用の電子メールアドレスで学生の相談や要望を受け付けます。

■教育訓練給付制度

HAccSは、厚生労働省教育訓練給付制度講座指定の許可を受けており、同制度が適用になります。

制度については、厚生労働省のWebサイト「教育訓練給付制度」を参照してください。

■奨学金制度など

大学院生が研究に集中できるように、経済的な面で援助する様々な支援制度が存在します。たとえば、日本学生支援機構奨学金(平成28年度:無利子で月額50,000円もしくは88,000円の「第一種奨学金」、有利子で月額5万円~15万円を選択できる「第二種奨学金」)については、希望者の多くが貸与を受けています。

さらに、大学院生に対する支援策としてティーチング・アシスタント(TA)制度があり、学部・大学院の授業を担当する教員の補助として教育の経験をつみ、一定の報酬を受けます。

■成績優秀者に対する入学科・授業料免除制度

北海道大学における特別に優秀な人材の受入れと育成の観点から、通常の免除制度に加え、専門職大学院合格者のうち入学試験において特に成績優秀な者に対し、入学科及び入学年次1年分の授業料が免除される制度です。経済学院会計情報専攻(専門職大学院)においては、特別入試・一般入試ごとに合格者の中から選考されます。なお、予め申請する必要はありません。

最先端の実務とのリンケージ

HAccSでは、会計専門職に対する多様な社会的要請に応えるべく、ビジネスの先端で活躍する会計専門職、地域社会に貢献する会計専門職という2つの方向性を重視しています。最新の知識と高い倫理観を備えた会計専門職の養成を実現するため、日本公認会計士協会北海道会や外部の実務家・研究者と密接に連携し、各種のプログラムを実施しています。最近の実績としては、公認会計士・監査審査会、国際会計基準審議会、他の会計専門職大学院、日本内部監査協会等から講師を招聘し、「会計監査の品質管理について」、「国際会計基準審議会(IASB)の活動及びそれを巡る動向」、「我が国及び米国における会計監査の実情と求められる公認会計士像」、「内部統制と監査の最新動向」といったテーマでセミナーを開催しています。

国際的な活動をしている公認会計士や企業の監査役といった先生方の講演は、大学院で学んだ知識を現実に即して理解することができるだけでなく、会計専門職としての自身の将来像を考えるうえで貴重な機会となるでしょう。なかでも地域社会に貢献する会計専門職というのは、具体的なイメージを描きにくいかもしれませんが、外部講師との積極的な交流によってその可能性を広げてください。

多くのプログラムは、一般にも公開していますので、在学生だけでなくアカウンティングスクールへの進学を考えている方の参加も可能となっています。



Hokkaido University Accounting School

在校生インタビュー



佐竹 友梨香さん

北海道出身
北海道大学法学部卒業 AS2年



上満 研吾さん

愛媛県出身
香川大学から入学 AS1年

北大のアカウントニングスクール(AS)を選んだ理由を聞かせてください。

佐竹:私は札幌の出身で、北大の法学部に通っていました。公認会計士になりたいと思っていたので、学部時から予備校に通っていました。そこに北大の先輩がいらして、アカウントニングスクールのお話をよく聞いていたので、アカウントニングスクールに行くなら北大以外は考えていなかったという感じです。

上満:僕は他大学からの進学ですが、佐竹さんと同じように学部時から公認会計士になりたいと思い、予備校に通っていました。最初は在学中の合格を目指して勉強していましたが、なかなかうまくいかず、一般企業への就職も考えていました。アカウントニングスクールのことは結構前から知っていたので、常に進学のことも念頭にはありました。北大のアカウントニングスクールについては、ゼミの先生と北大の先生が知り合いだったこともあって、いろいろお話を伺っていました。あとはインターネットを通じて情報収集をしました。

選択の際に重視したことはありましたか。

佐竹:私は、先程も言いましたように法学部の学生で、試験勉強以外に会計とか経済についての勉強はまったくしていませんでした。受験のための勉強だけではなく、もっと学問的な知識も学びたいと思い、ア

カウントニングスクールのカリキュラムを見たりしていました。会計学だけでなく、経営学・経済学・統計学・IT等、多くの分野をバランスよく勉強できることに魅力を感じまして、これがアカウントニングスクールに行こうと決めたまっかけです。選択科目が多く、ある程度は自分の興味にしたがって履修できる点もいいと思います。

上満:僕がまず優先したのは授業料等のコスト面で、はじめから国公立のアカウントニングスクールしか考えていませんでした。北大のアカウントニングスクールについては、ホームページで特色や講義科目を確認したり、願書を取り寄せた時に同封されていたパンフレットも参考にしました。実は、高校の修学旅行で一度、北海道に来たことがあります。その時、私自身は興味がなかったのですが、どうしても北大に来たいという友人がいて、いっしょに見に来ました。もう5年くらい前のことです。これも何かの縁かなと感じまして、北大への進学を考えるようになりました。

北大のホームページは、利用しましたか？印象などはいかがですか？

佐竹:私は、分からないことは直接先輩に聞くことができたので、主に進学説明会の情報を調べたりしました。進学説明会は、先輩の生の声が聞けるので、とてもいい機会だと思います。あとは、卒業に必要な取得単位数であるとか、設備環境も見ました。

どのような入試対策をしましたか。

佐竹:北大のアカウントニングスクールは、過去問をホームページからダウンロードすることができるので、それを使って難易度とか出題の傾向を分析しました。特殊な問題をやるというよりも、割と基礎的な問題を解くようにしました。あとは監査基準や会計基準などを読み込んだり、論述問題の対策として文章を書く練習もしました。やはりアウトプットの練習は大切だと思います。

上満:僕も同じように過去問を利用しました。出題形式に慣れるという意味でも、北大の過去問を解いておくことは必須です。また、基本的な計算問題を勉強し直すようにしました。加えて、会計の論述問題もやっていました。





佐竹さん前期一週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
6:30					起床		
7:30	起床	起床	起床	起床			
8:00					準備・登校	起床	起床
8:45	準備・登校	準備・登校	準備・登校	準備・登校	税務会計論Ⅳ	準備・登校	
10:30	企業法Ⅲ	国際会計論	財務諸表論Ⅲ	公会計論	監査基準論		準備・登校
12:00	自習室で勉強	自習室で勉強	自習室で勉強		自習室で勉強		
14:00							
14:45	英文会計B	専門学校	専門学校	自習室で勉強	専門学校	自習室で勉強	自習室で勉強
16:00	自習室で勉強	自習室で勉強	自習室で勉強		自習室で勉強		
18:00	専門学校			専門学校			帰宅
19:00		帰宅	帰宅		友人とご飯	帰宅	
21:00	帰宅	ランニング	ランニング	帰宅	帰宅		ランニング
0:00				就寝			
1:00	就寝	就寝	就寝		就寝	就寝	就寝

入試に関して、なにかアドバイスをお願いできますか。

佐竹: 可能であれば先輩の話を聞いておいた方がいいかなと思います。難しい問題をやるというよりも、比較的簡単な問題を正確に解く訓練をすることが重要だと思います。

上満: 僕の印象では、自分が入試を受けている時も専門科目(共通科目)の合格ラインはかなり高いと思いましたので、ここで取りこぼさないよう点を取ることが大切だと思います。論述問題は、諦めずにできるだけ書くという感じですかね。自分の場合は、ある程度、悔いが残らず終わったという印象でした。

入学後の学生生活についてお聞きします。1年間過ごした感想みたいなものを聞かせてください。

佐竹: 私は会計士試験に集中して取り組みたかったので、自習室はかなり利用しました。アカウンティングスクールでは、グループワークを取り入れた授業もあります。みんなて話し合い、一週間かけて結論をまとめていくという作業は、大変ですが非常にやりがいがあります。大学院の授業が受験勉強の負担になると思ったことは一度もありません。よく、どうしてアカウンティングスクールに進学したのかと言われます。たし

かに会計士を目指すのであれば受験勉強だけに専念した方がいいという人もいますが、大学院では受験にとらわれない多様な知識を身につけられますし、同じ目標に向かって切磋琢磨する仲間もいて、高いモチベーションで勉強することができます。一週間のスケジュールを見てもらうと、私は現在2年生なので1年生の時よりは授業科目数が少なくなっています。もちろん、これは履修の仕方によって変わってきますが、アカウンティングスクールの授業は午前中の授業が多く、大体3講時までで終了します。そのため、自然と規則的な生活になります。

上満: 僕は現在1年生ですが、入学直後の5月の短答式試験を目標にしていたので、前期は試験に関係のある授業を中心に履修しました。今思うと、試験を中心に考えすぎてしまったので、正直、もったいなかったなという気持ちがあります。せっかく四国から北海道に来てるので、そこで、バランスよく授業を履修しようと考えを変えました。現在は、一般企業への就職を考えています。アカウンティングスクールでいろいろな科目を履修しておくことは、将来必ず役に立つと思います。もちろん、せっかくアカウンティングスクールに来たわけですし、修了すれば短答式の一部免除も可能だと思うので、チャレンジはしていきたいと考えています。

授業の印象はいかがでしょう。

佐竹: 授業の特徴は、グループワークやプレゼン、ディスカッションが多いことでしょうか。学部では発表するという機会はほとんど



どなかったのですが、アカウンティングスクールではすごく多かったので、人前で話すのは慣れましたね。監査法人の面接時には本当に役に立ちました。もともと英語は好きだったのですが、会計士の勉強で英語から離れてしまっていたので、英文会計の授業で英語に触れる機会があって良かったと思います。また、国際会計論は海外

上満さん後期一週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
7:00	起床	起床	起床	起床	起床		
7:30	朝ドラ・登校	朝ドラ・登校	朝ドラ・登校	朝ドラ・登校	朝ドラ・登校	起床	
8:15	授業まで 自主学習	授業まで 自主学習	授業の予習	授業まで 自主学習	授業まで 自主学習	昼まで 家で読書	起床
8:45	簿記論Ⅱ		経営学B	原価計算論Ⅱ	企業法Ⅱ		
10:30	会計情報シ テム論	管理会計論Ⅱ	就活セミナー	自主学習	自主学習		ギターを弾いて みたり
12:30	研究室の仲間と ランチ	研究室の仲間と ランチ	研究室の仲間と ランチ	研究室の仲間と ランチ	研究室の仲間と ランチ	準備・登校	
14:45	グループディス カッション (授業の発表の ため)	財務諸表論Ⅱ 翌日の授業の 準備	会計事例研究 B 授業後友達と雑 談	就活セミナー	自主学習	グループディス カッション (授業の発表の ため)	友人と飲んだり
18:00	研究室の仲間と 学食へ	研究室の仲間と 学食へ	研究室の仲間と 学食へ	研究室の仲間と ジギスカン	研究室の仲間と 学食へ	研究室の先輩・ 同期とテニス	ライブハウスへ 行ったり
19:00	自主学習	自主学習	自主学習		自主学習		
21:00	帰宅	帰宅	帰宅		帰宅	帰宅	
23:30	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝



においての会計基準の動向など、グローバルな知識も深まり、会計士試験ともコミットすることがたくさんありました。実務家の先生の授業は、会計士試験の勉強と実務の違いなんかを早い段階で知ることができ

上満: 僕もグループワークが多いと感じました。企業法の授業では、実務経験に基づいた具体的な法令適用や、裏話までありイメージがよくつかめました。経営学は、最新のマネジメント手法を学習することができました。実務ではマネジメントの知識は重要だと思うので、とても有益な授業だと思います。また、短答式の勉強ばかりやっていたので、財務諸表の授業で理論の根底を考える機会が得られたのが印象に残っています。集中講義でしたが、経営情報の授業も自分にとって新鮮でした。文系でありながら数学的なものを駆使しExcelなどを使って理論的な指標を求めるというものでした。

会計士試験に向けて勉強しているわけですが、大学院の勉強と、会計士の受験勉強との両立というのはどうされていますか。

佐竹: 私は会計士受験に向けて勉強を進めてきましたが、やはり大学院の授業と会計士の試験勉強でメリハリをつけることが重要だと思います。学生同士でわからないところを教え合ったりしながら、モチベーションを維持してきました。

上満: 僕はいったん就職しようと考えています。会計士試験の合格はその後というスタンスで、今は試験勉強にとらわれないもっと奥深いものを意識して授業を受けるようにしています。就活を意識していると、

授業で学んだことがいろいろ役に立つことがわかってきました。

環境面はいかがでしょう。

佐竹: 自習室はすごく使っていて、集中しやすいと思います。LANケーブルもあるので便利です。あと、図書館に近いのも魅力的です。何か調べたいと思ったらすぐ行きますし。冬は結構寒いので、助かっています。コピーカードが毎年1,000枚使えるのも、かなり助かっています。各人にロッカーが割り当てられているのもいいですね。

上満: 研究室は、平日だけでなく土日朝6時半頃から夜の12時まで使用可能ですから、勉強時間がたくさん取れますね。図書室には、新しい書籍が入ってきますし、専門書もとても充実していて、課題の文献集めに活用しています。専門雑誌では、最近のトピックを把握することができますね。時事問題の把握のためにも、数誌ある新聞のチェックは欠かせません。毎日のように利用しています。学内専用のデータベースでは、国内外の論文、いろいろな法規、有価証券報告書等の検索が可能ですので、企業分析や判例研究に大変役立っています。

ました。教科書を読むだけではわからないことを学習することができ、とても興味深いものでした。あと実務家の先生の授業では、証券取引所や証券会社等、外部に出かけたこともあります。生の声を聞けるというのはすごく楽しかったなあと、視野が広がりました。



現在の仕事

2008年4月に日本銀行に就職し、現在は金融研究所・制度基盤研究課という部署で、金融経済に関連する会計制度の調査・研究を行っています。大学院の授業や公認会計士試験を通じて得た知識が大変役に立っています。

大学院生活を振り返って

会計大学院での生活を振り返ると、受験勉強ばかりしていたというよりも、多角的な視点から、金融経済における会計の役割をじっくりと考えることのできた有意義な時間であったと思います。大学院ではディスカッション形式の授業が多いほか、経済学やファイナンス、ITなど幅広い分野の選択科目が用意されており、そうした授業を履修することで、チームで問題を発見・解決する力や会計に対する自身の問題意識が養われたように思います。札幌という素晴らしいロケーションのなか、最高の仲間と学んだ2年間はかけがえのない財産になっています。



日本銀行
平成19年度卒
大坪 史尚さん

Message from Graduate



有限責任あずさ監査法人
平成21年度卒
清家 悦博さん

現在の仕事

2011年2月に監査法人に入所し、金融機関の監査に従事しています。自己査定監査等、一般事業会社では経験できないような業務もあり、大変ですが充実した日々を過ごしています。

大学院生活を振り返って

北大会計大学院の学習環境は、本当に恵まれていると思います。研究室では各人に専用席が与えられるので、好きなだけ勉強できました。私は2年間のほとんどを研究室で過ごしました。図書室には文献・書籍も充実しており、非常に勉強しやすい環境が整っていてありがたかったです。監査という仕事をして大切だと思ったのは、会計や監査だけでなく、経済やクライアントの属する業界の情勢等、様々な情報を常にキャッチアップしておくということです。大学院では、授業を通じて様々な文献を調べることが多かったので、情報収集の仕方はもちろん、情報を取捨選択する能力が鍛えられました。

現在の仕事

2013年4月に入社し、売る現場である販売店・作る現場である工場を経験し、現在はクルマに関わる喜びやお客様の喜ぶ姿にパワーを頂きながら、製作所の事業管理部会計ブロックで工場全体の会計に関する仕事をしております。

大学院生活を振り返って

大学院では、多角的観点から自分で考えることを重視し、時間をかけて1つ1つ丁寧に学ぶことができました。物事をじっくりと考え、たくさんの議論を重ねることができた時間であったし、その時間があったからこそ、現在に繋がっていると思います。やりたいこと・夢に向けて全力で取り組むことができる環境と、それを支えて下さる先生方・仲間との出会いがあり、充実した学生生活を送ることができました。札幌という場所も最高で、私にとって学部も含め北大で過ごした6年間はかけがえのない財産であり、原点になっています。



本田技研工業株式会社
平成24年度卒
鳴海 里津子さん

社会、経済との関連を意識して 財務会計の『今』を学ぶ。

21世紀になってから、立て続けに新しい会計基準が公表されてきました。会計基準を公表する機関も企業会計審議会から民間の企業会計基準委員会に変わりました。

この一連の会計制度改革では、新しい会計思考が導入され、企業会計の扱う対象が拡大したばかりでなく、国際間での会計基準の差異への対応が強く求められてきました。

新しい会計基準は、企業行動も変えました。連結情報中心への移行、連結範囲の拡大、有価証券の時価評価、退職給付会計や減損会計の導入、企業結合会計の整備などは、公表されることになる会計情報を意識した組織の变革と戦略の見直しを企業に強いることになりました。対応できない企業は市場からの撤退を選択せざるを得なくなりました。

10数年たった現在も、会計基準の見直しは続いています。特に現在は、日本企業が国際財務報告基準を採用することが認められるようになったこともあり、日本基準と国際財務報告基準との差異の見直しが急務となってきています。

財務会計分野では、今も変わり続ける会計の「今」を学

びます。担当科目について、その範囲と特徴を述べてみましょう。財務諸表論では、財務会計の基本的な概念と全体的な体系を学びます。当然、現在の会計基準体系や会計制度の領域も対象となりますが、そこではまず核となる考え方を理解し、その枠組を把握することが大事だと考えています。

財務会計事例研究では、会計情報と企業行動、そして現在の社会・経済との関わりを理解するために現実の事例ごとに討論を中心に授業が進められます。討論を中心にするのは、自ら論点や問題点を見つけ出し、有効な意見交換を行うにはどのようにすればよいかを身につけてもらいたいからです。一方、近年の会計基準におけるコンバージェンスやアドプションの国際的動向とその意味、国際財務報告基準が求める会計情報の特質と日本基準との差異を学ぶのは国際財務報告基準論になります。

近年、「会計」が社会、経済の中で果たす役割が広く認識されてきていると感じています。社会、経済との関連を意識して広い視野で「会計」を学んでもらいたいと考えています。



YONEYAMA Yuji
米山 祐司 教授

担当科目
財務諸表論、国際財務報告基準論、財務会計事例研究



IWATA Satoshi
岩田 智 教授

経営学

専門分野は、企業行動論、特に国際企業行動論です。経営学分野でもかなり応用的な内容が中心となっています。直接会計分野の学習には役に立たないかもしれませんが、企業経営に関する視野を広げるという意味では役に立つかもしれません。会計分野以外の内容にも関心があれば、受講して視野を広げていただければと思います。



KUBO Junji
久保 淳司 准教授

財務諸表論、国際財務報告基準論

「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず。未だ覚めず池塘春草の夢、階前の梧葉已に秋声。」
私も修士課程2年間は、あっという間にすぎたように思います。後悔しないように、入学後17,520時間、ただひたすら勉学に励んで下さい。



KITAMURA Yoshitaka
北村 好孝 特任教授(公認会計士)

簿記、会計情報システム論

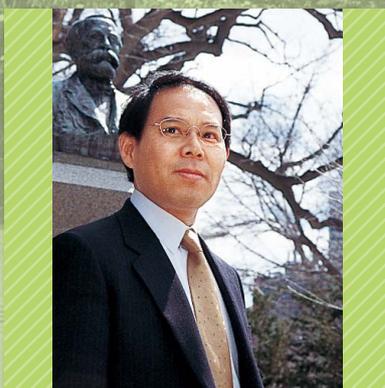
札幌市内で監査法人を設立し、監査・コンサルティング業務等を行っています。情報技術の進歩が監査実務を大きく変えようとしています。会計士が取り組むべき新たな課題であると同時に、業務分野の広がりにも繋がるでしょう。情報とそれに対する保証、その価値についての基本的な概念に対する理解が重要と考えています。



KASUKABE Mitsunori
春日部 光紀 准教授

管理会計史

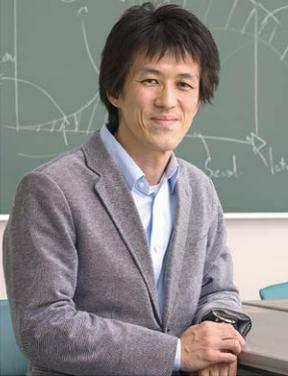
専門分野は、会計史です。会計実務の発展過程をその時々々の社会経済的背景とともに検討することによって、会計の社会的機能が解明できると考えています。会計の技術的な側面だけではなく、理論的背景や現実的効果も併せて勉強することで、より深い理解が得られると思います。



KANIE Akira
蟹江 章 教授

監査論

専門分野は監査論で、監査理論および監査制度論が研究の中心です。その他、コーポレート・ガバナンスと監査との関連にも関心をもっています。会計や監査というと堅い話になりがちですが、クラシックやジャズでも聴きながら、リラックスした気分で勉強したいというのが最近の心境です。



SAKAGAWA Yuji
坂川 裕司 教授

経営学

会計で扱う財務数値は企業経営のアウトプットです。このアウトプットに携わる職業としての会計士は、その背後にあるインプットやプロセス、すなわち企業経営について深い知識を身につけることで、企業経営の問題を見つけ出すことができます。この機会に学生の皆さんには、企業経営について学んでほしいと思います。



GOTO Makoto
後藤 允 准教授

経営情報

専門は投資決定理論です。講義では、組織経営における情報の分析という立場から、不確実性下の意思決定手法であるリアルオプションの理論と応用を展開します。理論は数学を基礎にしますが、数学は「考える力」を養う学問であり、論理展開を表現する道具です。これらは実務の世界でも必要不可欠な要素です。是非、一緒に学びましょう。



SAKURADA Joe
櫻田 譲 准教授

税務会計論

研究分野は税務会計論です。目下の研究課題は1. 中小法人における役員報酬の算定構造解明と、2. 法人課税理論における引当金・準備金制度の産業政策的観点からの評価です。制度会計では会社法や金商法が話題の中心となりますが、法人課税理論がわが国法人の会計行動に与える影響を中心に伝えたいと思います。



SHINODA Tomonari
篠田 朝也 准教授

管理会計論、公管理会計論

現在は、資本予算について理論および実務の両面から研究を進めています。講義では、会計の理論や技法のみならず、実証研究、ケース研究の成果なども合わせて取り上げていきたいと考えています。今ある現実とあるべき理論、その関連性やギャップ、現実と理論の変化や不変などについて考察を深めてもらえればと思います。



SUZUKI Teruyoshi
鈴木 輝好 教授

コーポレートファイナンス、金融デリバティブズ

専門はファイナンス。講義では、投資実務に携わっていた経験を生かしつつ、コーポレートファイナンス、金融デリバティブズ等について展開します。学生諸子には、会計情報を利用する投資家や金融機関の立場を理解することで、会計士としての見識を高めて欲しいと思います。



SASAKI Kiyoshi
佐々木 潔 教授

企業法

専門分野は、金融商品取引法です。会計専門職の経済社会の幅広い分野での役割や仕事の重要性は、近年、より一層高まっています。直接金融による資金調達を行うための有価証券届出書等による発行開示、上場会社等が財務状況を開示するための有価証券報告書等による継続開示の仕組みを理解し、上場会社等の実務上の問題点について、皆さんと共に事例を研究していきたいと考えています。



SONO Shintaro

園 信太郎 教授

統計学実習、情報システム実習

「統計学の基礎」に強い関心を持っています。確率とは何か、確率が「ある」とはいかなることかを、あえて問います。不確実性の時代の会計学にとって、このような根本的問いは決して無縁ではありません。授業では数学的技巧をできるだけ表に出さずに、本質志向の議論を展開します。お互いに生徒として学んで行きましょう。どうかよろしく！



MATSUO Daisuke

松尾 大介 特任教授(公認会計士)

簿記、監査基準論

大手監査法人勤務後、独立開業して監査・税務・コンサルティング業務等を行なっています。これまでの公認会計士としての実務経験を交えながら講義していきたいと思っておりますので、皆さんには、会計・監査の知識だけでなく、将来それを実務の現場で活かせるような発想力・問題解決能力を養ってほしいと考えています。



TANIGUCHI Masako

谷口 雅子 特任教授(公認会計士)

税務会計論

私はこれまで、監査法人では主として上場会社、国立大学法人、信用金庫などの会計監査を、また、税務関係では、税務署で税務調査、国税不服審判所で更正処分等に係る審理を仕事としてまいりました。実務家教員として、私が今まで仕事を通じて得た知識や経験を皆様にお伝えできればと思っています。



YOSHIMI Hiroshi

吉見 宏 教授

会計職業倫理、監査論、公会計論

私の専門は監査論、特に監査期待ギャップや不正監査がその中心です。またもう一つの研究対象として公会計分野があります。大学院ではこれらの関連科目を担当しますが、これらの科目は、座学だけでは学ぶことができないところに特徴があります。会計専門職にとって現場で必要な、自分からスキルを獲得する姿勢も体得してほしいと思っています。



YONEYAMA Yuji

米山 祐司 教授

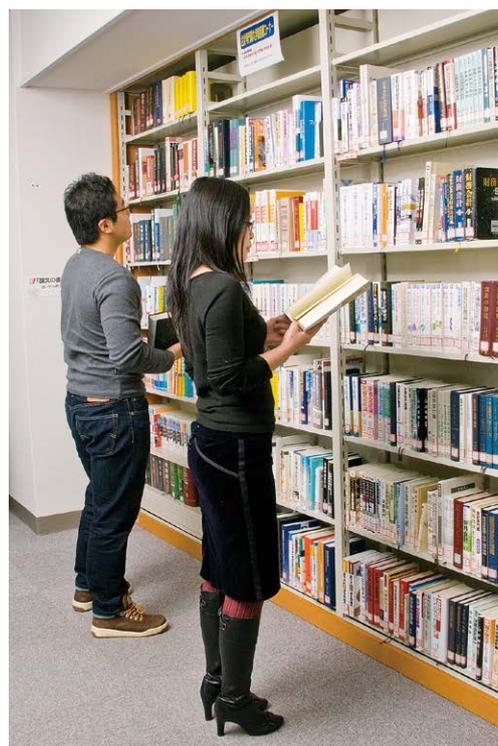
財務諸表論、国際財務報告基準論

開示される会計情報と社会・経済環境の関連を、アメリカ会計基準を中心に研究してきました。現在、会計の世界は国際的な連関の中で大きな変革の渦中にあります。大学院では、日々、国内外の社会と経済や企業経営の動きに関心をもち、広い視野のもとで会計を学ぶようにしてください。

- 名 称 …… 会計情報専攻
- 課 程 …… 専門職学位課程
- 学位名称 …… 会計修士(専門職)
- 学生定員 …… 入学定員20名、収容定員40名
- 設置形態 …… 専門職大学院
- 修業年限 …… 2年
- 修了要件 …… 48単位以上の修得

認定評価機構による認定会計大学院

HAccSは、平成25年度に会計大学院認定評価機構による分野別認定評価を受け、「認定会計大学院」の称号を授与されました。アカウンティング・スクールをはじめとする専門職大学院は、5年に1度外部の認定評価機構による評価を受けなければなりません。HAccSは、その評価の結果、会計大学院としてのすべての評価基準に適合しているものと認められました。



■ 大学院図書室



■ 大学院研究室



■ 情報処理室



